

スクラム

2023年7月号
第219号

編集・発行

「スクラム」編集部

〒732-0057 広島市東区二葉の里 1-3-16 スクラムユニオン・ひろしま

TEL/FAX 082-264-2310 scrum_u34@ybb.ne.jp 郵便振替 01310-1-65053

銀行振り込み先 もみじ銀行 三篠支店 普通 口座番号 1820186

スクラムユニオン・ひろしま 第22回 定期大会



第22回定期大会報告

7月2日午後2時から、西区民文化センターにおいて、第22回定期大会を開催した。

参加者は40名近くとなった。今年は、久しぶりに出雲のブラジル人代表たちも家族で参加し、また山口で身柄を確保しているフィリピン実習生たちも参加しての大会となった。通訳体制も整え、議案提案の後に活発な各闘争報告を行ってもらった。その意味では、にぎやかで国際色豊かな充実した大会だった。

大会では22年度の主な活動を総括し、23年度方針、22年度決算、23年度予算を採択した。そして、今年度中には組合員300名を実現するべく力を合わせて奮闘すること、出雲村田に支部を結成する方向も確認した。

情勢の進展についても理解を深め、労働者階級としての自覚と取り組みの重要性が共有された。議案書は、次のように指摘している。「2022年は、ロシアのウクライナ侵略が開始された年として長く記憶されることとなった。そして、「激動の時代」が戦争という形で現れるまでに矛盾が成熟したことを否応なく突きつけたと言える。

安倍政治を引き継ぎ、さらに推し進めようとする岸田政権は、日米軍事同盟の強化、軍事費の倍増、平和憲法の実質的改憲＝敵基地攻撃能力の確保を安保関連3文書の閣議決定という形で強行した。戦後日本の国家的枠組みの大転換を閣議決定という手続きだけで行うことなど許されない。まさにファッショ的手法である。

また、岸田は2011年の福島原発事故が全くなかったかのように、原発政策を転換し、新規原発の増設、原発再稼働などを打ち上げた。日本の国民生活に深く関わる重大政策をいとも簡単に切り替えることなど許されることではない。

人に対する評価は、「その人の言うことではなく行うことで判断しなければならない。」岸田は安倍以上に危険である。岸田政権に日本の政治を任せるわけにはいかない。

一方で、物価は4%以上も値上がりしている。庶民の生活実感としてはそれ以上のものがある。賃金は上がらず、実質賃金はその分だけ目減りしている。労働者人民は、生活し、生きていくためには闘わなければならない。そのような情勢が到来している。」まさに、労働運動の果たすべき役割が増大している。団結を強化し、さらに奮闘していくことを強く決意した大会であった。

柳副委員長が閉会挨拶を行った。この閉会挨拶は、簡潔だが、大会の持つ意義を明らかにしている。

大会の第一の意義は、昨年11月に出雲に組合事務所を設立したことを全体で確認したことだ。毎週火曜日・水曜日に委員長・書記長・尾坂執行委員が出雲に出向いて、言葉の壁を乗り越えて、村田製作所で働くブラジル人労働者の相談活動を行い、70名の新規組合加入を勝ち取った。これは大きな成果である。そして、その中から、自力で問題を解決できるリーダーづくりをめざしていることも確認した。

大会の第二の意義は、組合員同士の交流ができたことだ。出雲からはリーダーのホドリゴさんとパウロさんが家族を含めて参加し、山口からもフィリピン技能実習生M兄弟が参加して、生の声を聴くことがで

きた。組合員の皆さんは、普段あまり横のつながりが無い。こうして一堂に会して、闘う仲間の話が聞けたことは大きな成果である。

最後に、本部は300人の組合員実現を目標に立てた。これは決して不可能な目標ではない。

スクラムは一人からでも加入できる組合だ。皆それぞれ、様々な経緯で組合に加入している。しかし、残念ながら、自分の問題が解決したら組合を辞めていく人が多い。そうではなく、今度は自分が他の労働者を助ける側になってもらいたい。そして、職場で頑張っている組合員は、自分の職場にひとりでも仲間を増やしていく取り組みを本部と一緒にやっていただきたい。これが組織拡大の鍵となる。

来年は、さらに仲間を増やして自信に満ちた皆さんの元気な顔が見られることを期待する。ともに頑張ろう。



私たちの定期大会の意味

執行委員 尾坂紀生

定期大会は、職場の代議員が一堂に会し、労働組合の過去1年の運動を総括し、向こう1年の活動と方向性を決定する場である。したがって、代議員相互の議論が必須であり、ときには活動方針を巡って激しい論戦が起こる。その議論に若い出席者が労働運動のなんたるかを学んだり、論戦を見事に収拾し、全体をまとめていく執行部の手腕に組合への信頼感が醸成されたりする。私はそういう大会イメージを持っているのだが、今回の定期大会はそのようなものではなかった。それには理由がある。

私たちのユニオンは個人加入がほとんどで、組合員が複数存在する分会はわずかだ。したがって、職場を代表して出席しているという認識の人はごく少数となる。職場で孤立させられ、たった一人で闘いに立ち上がっている人がほとんどだ。それは、ときには人生そのものをかけるほどの覚悟や勇気、エネルギーが必要となる。日々の闘争で精いっぱいとなる。だから、疲労困憊し、毎朝寝床から起きることでさえままならない人もいる。非正規労働者や有期雇用労働者、派遣労働者、技能実習生など、徹底的に搾取され、生きていくのがやっとという人も多い。また仕事を奪われて無職となった人、病魔に侵されて休職中の人もいる。

そういう組合員で成り立っているユニオンの定期大会である。大会が成立すること自体に大きな大きな価値があるのだ。私たちは、フィリピン人技能実習生、ブラジル人派遣労働者、裁判闘争、パワハラ、賃金闘争に立ち向かった人の声を聴き、悩み、苦しみ、思いを聞き、それを受け取った。そこに学び、社会のひずみに気づいた。私たち一人ひとりには小さく微力だけれども、仲間の声をきちんと聴ける力がある。搾取する者、パワハラをする者、差別をする者には人をだまし、利用し、踏み台にする力はあるけれど、苦しみの声を聴く力もなく、支えあう力もない。私たちはちっぽけな存在だけど、集まってスクラムを組む力がある。

そんなことを思いながら演台に立つ人の顔を見つめ、声を聴いていると、厳しい内容の話であるにもかかわらず、いつの間にか自然と小さな笑みが私に浮かんでくる。そんな『スクラム』の大会だった。

定期大会に参加して

執行委員 小林 さゆり

私にとっては、今回で二回目の定期大会の参加でしたが、昨年と今年では、大会に臨む姿勢はまったく違うものでした。2021年の春に、前職場で組合つぶしの謀略にかかり懲戒解雇になったことがきっかけでスクラムユニオンに加入しました。会社の不正をあばき、健全な会社運営を実現するために知識もない職員が団結して立ち上げた素人労働組合でしたから、結成後半年余りであっさりつぶされてしまいました。もっと早くスクラムユニオンの存在を知って、単組加盟していれば、もう少し違った展開になっていたのかもしれませんが。何せ素人集団の組合でしたので後悔先に立たず、です。

昨年の定期大会の前に一組合員であった私に、土屋委員長から「今頃、自分たちで組合を立ち上げようなんて人間は滅多にいない、執行委員になって勉強してみないか」と導かれ一年が経ち、今回二回目の定

期大会を迎えました。この一年、執行委員として月一の執行委員会のほか、二週間に一度の学習会を通してさまざまな勉強をさせていただきました。昨年の議案書は、正直なところ新聞記事を読むような感覚でしかなく、世の中にはいろんな事件があるんだなあと思う程度でした。しかし、今年は違います。活動の一つ一つに意味があり、自分の思いや見解があります。そして、何より、この活動をより多くの人に知ってもらいたい、共有したいと思うようになりました。また、今回の大会では、遠方からブラジルやフィリピンの方の参加もあり、国際色豊かな大会となりました。同じ日本で働く労働者として、国籍や性別、宗教の隔たりなく、平和で安定した生活が送れるように、共に力を合わせていきたいと強く思うようになりました。



初めて大会に参加して

組合員 加藤佑典

人も仕事も多種多様にありますが、会社とは本来であれば社員や従業員の生活を支え、充実させ、社会的責任を持つべきものです。また、人と人が交流し、互いに理解し合うことで人間力を向上させ、人も会社も成長していく存在でもあります。にもかかわらず、私は職場で人生において2回目となるハラスメントに遭いました。労基に相談しても解決に至らなかったため、スクラムユニオン・ひろしまに入りました。ハラスメントを助長し、組織の中で成長させる風土を決して見過ごしてはならない深刻な問題だと感じ、土屋委員長、柳副委員長の力を借りて闘っています。

去年、スクラムユニオン・ひろしまに加入したばかりの私ですが、第22回定期大会に参加し、その中で特に印象に残ったことがありました。活動報告が行われ、出雲のブラジル人メンバーから土屋さんたちに向けて「言葉が通じず困っている私たちを受け入れ、手を差し伸べてくれた。」「とても感謝している。土屋さんたちを家族のように感じている。」と、心温まる感謝の言葉が贈られました。

言葉が解らないだけで過酷なものとなる日本の労働環境、そして、助けようとも、寄り添おうともしない日本社会の問題について、私たちに何ができるか考える機会となりました。

今後、出雲、大田のユニオンが持続的に労働者同士で助け合える組織になるとともに、言葉の壁を乗り

超え、労働現場の問題解決だけでなく、日常生活の面においても外国人労働者の心の支えになることを願っています。自分もまた、外国人労働者とともに歩んでいける人間でありたいと思いました。

JAL 争議 2023 年 6 月 18 日



6月18日、広島市本通りにおいて、JAL争議の早期解決を求めて街頭宣伝を行った。これは、6月に行われる日本航空の株主総会に向けて、全国で取り組まれた抗議行動の一環である。当日は、広島県労協として、午前中に福山駅で、続いて広島市での街宣となった。JAL被解雇者労働組合を代表して鈴木圭子さんが、さらに金澤全労協前議長がマイクを持ち、日本航空の不当な大量解雇を指弾した。

そもそもJAL争議の発端は、日本航空が、2010年12月大晦日にパイロット81名、客室乗務員84名を整理解雇したことに始まる。当時、JALの再建過程で人員の削減目標は超過達成され、さらに1586億円もの営業利益を上げていたにもかかわらず、解雇は強行された。その背景にあったものは、利益最優先のためにモノ言う労働者の排除と労働組合の弱体化を狙ったものである。かつて国鉄労働組合をつぶすために強行された国鉄分割・民営化と同じく国家的不当労働行為である。

JALも国交省も削減員数を隠し、「人員が余剰」とウソをついて解雇を強行した。航空法で公表が求められているJALグループ「安全報告書」で明らかとなった2011年3月段階での人員配置数では、パイロット・客室乗務員合わせて735名も超過削減していた。すなわち、165名の解雇は全く必要がなかつ

たことが証拠として明確となったのである。

解雇後に稲森会長(当時)は、記者会見や裁判で「経営上解雇の必要はなかった」と述べている。

日本航空が不当に解雇してから、すでに12年の月日が経った。「解雇自由な社会は許さない」というスローガンを掲げて、闘いを続けるJAL被解雇者労働組合の闘いを支援し、ともに勝利を闘い取ろう！

東広島市技能実習生の支援について 執行委員 岩下康子

2023年4月、東広島市で19歳の技能実習生が死体遺棄事件で逮捕された。19歳の女性が、たった一人で出産し、間もなく死んでしまった嬰兒をどうすることもできず、空き地に捨てたという事件である。

事件の概要だけをなぞると、生命軽視という言葉や人として母親としてあり得ない行為だ、と非難されても仕方がない。本来、出産というのは周囲の人から祝福を受け、安全で安心な場所で迎えられるものでなくてはならないはずなのに、それが許されないと思込まれる。それが技能実習制度なのだ。

技能実習制度では、現在、妊娠しても技能実習を継続できるよう企業や監理団体には広く周知されるようになった。しかし、それは当の技能実習生には十分伝わっていない。技能実習生たちに、これらを積極的に伝えようとする企業や監理団体も少ないであろう。技能実習生の多くは、母国で、「妊娠してはいけません。妊娠したら帰国です。」という話をいやというほど聞かされてきている。そんな彼女たちにとって、妊娠は隠さねばならない禍でしかないのだ。

「誰にも相談できなかった。同僚も先輩が多くて、緊張するばかりだった。私は孤独だった。」現在20歳となった彼女は、震える声でそう述べた。妊娠に至る背景も一人ひとり違うが、その人が抱えてきた環境の相違によって、事件は全く違う色を帯びる。少数民族出身の彼女は、大家族を支える希望として、はるばる日本にやってきた。農業を営む家族がお金を稼ぐには、出稼ぎしか方法が見つからなかったのだ。病気の姉、幼い弟たちを養っていくには、自分が何とかして稼がないといけない、そんな思いが彼女に沈黙を強いた。日に日に大きくなる腹部を前に、誰にも言えない苦しみも重なって辛かったであろう。さらに、ベトナム国内の民族間の問題もある。ベトナムの主流となるキン族と少数民族との間では、現在も様々なトラブルや争いがあるという。そんな背景も彼女は背負っている。

7月6日、多くの方の支援を経て、彼女は保釈された。当日、拘留所には多くの支援者が駆け付けた。技能実習生を支援する会の吉田舞さんのついでシェルターが確保され、彼女はそこで生活を始めた。日々、様々な方が彼女を訪問し、一気にあわただしい日々になっているようだ。日本語を勉強したいという気持ちも高まり、平日の昼間は一生懸命日本語の学習に取り組んでいる。やさしい日本語を使えば、こちら側の意図はある程度分かるまでになっている。自分からの発信はまだまだです、とはにかむように話す。また、教会関係者の訪問は、彼女の信仰心を刺激している。敬虔なクリスチャンなのだ。

公判は8月3日の予定である。それまでに、新しい就業先を見つけられるのか、時間との戦いになる。

多くの方の情報とお力を切に願う。

東広島市で孤立出産した技能実習生 支援のご協力をお願いします！

2020年に続き孤立出産に起因する事件は、東広島市で2件目です。

2023年4月、19歳の女性が逮捕されました。彼女はベトナム人技能実習生です。妊娠したことを誰にも相談することができず、たった一人で出産。間もなく死亡した嬰兒の存在をどうすることもできず、遺棄した容疑で送検されました。

彼女は母国に約100万円の借金を抱えて来日し、この膨大な借金を返済しなければ家族が路頭に迷うため、誰にも相談できませんでした。来日後、約11万円の給料から9万円を実家に送金していたといいます。彼女はただ、生きること必死だったのです。

「妊娠がばれたら帰国させられる。」それは、今なお技能実習生の間の常識です。

私たちは彼女が再起し、技能実習継続のための支援をしています。そのために、皆さんのお力を貸してください。再び就労復帰し、安定した生活ができるまでの当面の間の生活費のご支援をお願いします。

ご支援いただいた皆様と彼女の今後の動向を共有し、二度とこのような事件が起こらないように、移住労働者の孤立出産防止の仕組みづくりに取り組みたいと考えています。移住労働者が妊娠・出産する権利と出産後、働き続けることが当たり前になる社会の実現に向けて共に取り組んでいきましょう。皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。2023年6月28日

口座名： 外国人技能実習生を支援する会
振り込み先： 広島銀行 本店 普通 3807704
お問い合わせ: iyasuko.jp@yahoo.co.jp 09056922467(事務局岩下まで)

共同代表: 赤木達男 (広島ベトナム平和友好協会・会長)
後藤慧 (外国人住民との共生を実現する広島キリスト者連絡協議会・世話人)

彼女の職種は、水産加工の加熱調味加工です。職種としては希少なため、新規の就労先の確保が難航しています。情報をお持ちの方は、「スクラムユニオン・ひろしま」までご一報ください。

また、生活を支える資金を必要としています。支援金についても、引き続きよろしく願いいたします。

スクラムユニオン・ひろしまの活動報告と予定

6月の報告 (一部抜粋)	7月の予定 (一部抜粋)
1日 出雲ブルーリーダー会議	2日 スクラムユニオン・ひろしま第22回定期大会
2日 アバンセ事務折衝・西日本メディカル事務折衝	3日 MSC/MCCとの合同折衝
3日 東広島実習生を支援する会・中国帰国者学習会	5日 アバンセ団交
4日 スクラムユニオン・ひろしま執行委員会	6日 中労委(コムテック労組再審)
5日 酒井工業団交・西部リサイクル	10日 泉鋼業事務折衝
6/7日 出雲労働相談・泉鋼業団交(高松)	15日 東広島市技能実習生を支援する会
15日 ネクストワン団交	16日 スクラムユニオン・ひろしま執行委員会
19日 泉鋼業団交	20日 県労協幹事会
10/11日 移住連全国ワークショップ・総会	23日 NPO事務局会議・最賃街直
13/14日 アバンセ・フジアルテコミティ	24日 実習生ネット・物語コーポレーション団交 泉鋼業団交(高松)
16日 広島労働局最賃交渉・アスベストユニオン	25日 広島県労委(インシックス第3回調査)
19日 エイジトレーディング団交・フォーブル団交	29日 ブラジル人交流会(出雲)
22日 書記局会議・県労協幹事会	8月6日 スクラムユニオンひろしま執行委員会
23日 安全運輸団交・市役所交渉(帰国者の会)	他
27/28日 出雲労働相談 他	